

「能登半島地震」からの復旧・復興にむけ全国連帯でとりくむアピール

2024年1月1日、能登半島地方を震源とする最大震度7の地震が発生しました。

この地震により、広域にわたり多くの方々が犠牲になりました。家屋の倒壊や屋根の崩落、水道破断や停電、道路の決壊と崖崩れが起き、数多くの孤立集落も発生しました。沿岸部では、津波や火災、地盤の隆起による多大な被害も報告されています。

被災地が半島であるという地形的な要因に加え、政治の対応の遅れから、インフラの復旧は困難をきたし、生活再建がなかなかすすまない状況を引き起こしています。

他の学校や施設を間借りし、近隣の学校の子どもたちとともに短縮授業やオンライン授業、運搬給水や「簡易給食」等を行いながら、なんとか再開できている学校があります。様変わりした日常に、不安やストレスを感じたり余震に怯えながら慣れない地域での避難所生活を強いられたいしている子どもたちがいます。たとえ、避難所を出るにしても、暮らしてきた家、被災前の生活に戻ることができるとは限りません。それでも、住み慣れたこの地の暮らしや子どもたちの学びの保障のため、自らが被災者であるにも関わらず、懸命に子どもたちに寄り添い教育活動を続けるなかま、地域医療に尽力するなかまがいます。

被災地の子どもたちや教職員が日常を取り戻すためには、安心して暮らせるように早急な対応が必要です。そして、安全に教育活動が行えるためには、環境整備が必要です。私たちは、被災された方々に思いを寄せ、時間の経過とともに変化する現地のニーズにできる限り応えるため、教育復興支援を行っていきます。

日教組は、「能登半島地震」災害対策本部を立ち上げ、子ども・教職員の救済、学校教育の早期復興等に充てるため、災害救援カンパへの協力要請を行っています。また、被災地単組と連携のもと教育復興のための準備を整えています。

私たちは、能登半島が復興する日まで、これまでの震災から学び、経験をいかして、全国のなかまと力を合わせ、これからも全国連帯でとりくんでいきます。

2024年3月14日

日本教職員組合 第113回臨時大会